

令和3年度 市政アンケートモニター調査 反映状況

	調査項目（実施課）	反映状況
1	ホビーのまち静岡に関するアンケート調査 （産業振興課）	<p>《令和3年12月10月 実施》 模型・プラモデル以外で関心のある本市のものづくり産業として、缶詰と回答した人がもっとも多かったことから、本市の特徴的な産業について、その産業に従事する方を講師に招いて、市内小学校で出前授業を行う「ものづくりキャリア教育推進事業」の中で、「缶詰」をメニューに加え、実際に授業を実施した。</p> <p>《令和4年度 実施予定》 「ホビーのまち静岡(模型の世界首都静岡)」の取組について、意見を求めたところ、「身近な場所でプラモデルに出会う場所がない。」「プラモデルを買う場所が少ない」等の意見が複数あったことから、現在、プラモデルと身近な場所で購入できるサービスの実証実験を行い、模型の世界首都としての魅力創出の有効性を検証していく。</p>
2	買物環境・商店街に関するアンケート調査 （商業労政課）	<p>《令和5年4月 実施予定》 モニター回答者の80%以上が「商店街が寂れてきた」「近くに商店街が無い」と回答している結果から、商店街が厳しい状況におかれていることを再確認できた。そのため、商店街の今後のあり方や方向性について、改訂を予定している商業振興基本計画へ反映させていく。</p>
3	静岡市のお茶に関するアンケート調査 （農業政策課）	<p>《令和4年5月 実施》 「静岡市のお茶」の振興のために特に重要と考えられる取り組みとして、「お茶に関する積極的な情報発信」(39.3%)、「国内での販路拡大・プロモーション」(30.3%)という意見があったことから、新茶PRイベント「茶縁」及び関東圏の日本茶インストラクターを対象にしたオンラインセミナーを開催し、「静岡市の山のお茶」に関する情報を市内外に広く発信した。</p> <p>《令和4年度～ 検討中》 「静岡市がお茶のまちであることを誇りに思う」(90%)という設問は、第2次静岡市茶どころ日本一計画の目標指標となっており、調査結果を計画の進捗状況把握、計画の中間見直し等へ活用していく。</p>
4	「まちは劇場」の推進に関するアンケート調査 （まちは劇場推進課）	<p>《令和4年2月 実施》 「まちは劇場」という言葉を見聞きしたことがある人の割合は31.0%であったが、市民が主役のまちづくりを目指していることについて、「よい」「ややよい」と回答した人が69.6%と、取組に対する肯定意見が多かったことから、さらなる共感者の増加を図るため、専用ホームページ「ON STAGE SHIZUOKA」の改修を行い情報発信力の強化を行うとともに、SNSを立ち上げ、情報発信を行っている。</p>

	調査項目（実施課）	反映状況
5	市民の防犯意識に関するアンケート調査 （生活安心安全課）	<p>《令和4年3月～ 検討中》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡市の治安がよくなっていると思う（「どちらかといえばよくなっていると思う」含む）」は18.6%と低かった。 また、「地域で行われている防犯活動に参加していない」、と回答した方も74.5%であり、実際に防犯活動に携わっている人は少ないということがわかった。 <p>安全で安心して暮らせる地域社会の実現には、地域で一体となって防犯活動に取り組むことが重要なことから、防犯に対する意識と地域防犯活動への参加意欲を高めるための広報・啓発活動など、地域防犯活動を推進していくための取組みを検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者等支援のために設けられている各種相談窓口について、「知っているものはない」と回答した方が44.1%と半数近くの方が知らないという現状がわかったことから、引き続き相談窓口の周知に努めていくとともに、犯罪被害者等支援について理解を深めていただくような啓発方法等を検討していく。 ・今回のアンケート結果を参考に、市の防犯及び犯罪被害者等支援に関する施策を総合的に推進するための「第3次犯罪等に強いまちづくり基本計画」の策定について静岡市犯罪等に強いまちづくり推進審議会で審議する。
6	静岡駅南口駅前広場の再整備に関するアンケート調査 （市街地整備課）	<p>《令和4年度～ 検討中》</p> <p>静岡駅南口駅前広場利用者が、「課題だと思うところ」として「自家用車（送迎）が利用しにくい」という意見が53.5%と多かったことから、広場内における自家用車乗降スペースのあり方や、周辺道路の交通体系等について、南口再整備事業の計画へ反映させるため、引き続き検討している。</p> <p>また、利用者が、「とても不便」「やや不便」と感じている理由として「快適に待てる場所がない」が76.9%と圧倒的に多かったことから、広場内における環境空間のあり方や空間確保の手法等について検討を進めている。</p>